

# 埼玉県青少年赤十字研究奨励報告書

## 研究主題

「豊かな明日の創造をめざし、いきいきと活動する児童の育成」

### 1 研究主題

変化の激しい先行き不透明な時代、「生きる力」の育成が強く求められている。とりわけ、個人主義や経済優先の風潮が強まり、人間関係の希薄化が進む今日において、「平和的で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質」を養うためには、子ども達に社会の一員としての自覚と行動力を身に付けさせる必要がある。

そこで、本校では、地域との交流を重視して、福祉・奉仕等の活動に積極的に取り組み、自らも社会の一員として、進んで考え、生き生きと活動する児童の育成に取り組むことにした。このことは、青少年赤十字の活動が目指す「自ら気がつき、考え、実践する」ことのできる児童の育成につながると考える。子ども達が、具体的な活動や体験を通して、地域の人とのかかわりを広げ、福祉や奉仕について主体的に学ぶ教育を推進したいと考え、本研究主題を設定した。以下、これまで、本校が取り組んできた実践を述べる。

### 2 研究内容

- (1) 総合的な学習の時間
  - ・ 障害者・高齢者疑似体験
- (2) 生命尊重教育
  - ・ 「いのちの支え合い」を学ぶ授業
- (3) 交流活動
  - ・ あいさつ運動
  - ・ 三世代ふれあい広場
  - ・ どれみふあさいど
  - ・ さいどっ子まつり
- (4) 勤労・奉仕活動
  - ・ 清掃活動
- (5) 生産的活動
  - ・ 稲作
  - ・ 花いっぱい運動



### 3 研究の実際

#### <主な活動計画>

- 4月 研究計画立案  
あいさつ運動開始（毎月：代表委員会）
- 5月 花いっぱい運動開始（毎月：各学年・栽培委員）  
田植え（5年）  
盲導犬とのふれあい（4年福祉）  
緑の募金
- 6月 三世代ふれあい広場（地域交流）
- 9月 敬老会（金管・地域交流）  
稲刈り（5年）
- 10月 クリーン活動（～12月：児童ボランティア）
- 11月 どれみふあさいどコンサート（地域交流）  
さいどっ子まつり（地域交流）  
老人ホーム慰問（4年福祉・奉仕）
- 12月 赤い羽根の募金
- 2月 実践評価・課題整理



#### （1）総合的な学習の時間

##### <ねらい>

身近な福祉問題の解決方法や、みんなが幸せに暮らせる社会の実現について考え、自分にもできる活動を実践できるようにする。また、身近な高齢者・障害者について理解し、それぞれの存在の大切さに気づき、温かな気持ちで接す態度を育てる。

##### <実践>

##### 障害者・高齢者疑似体験

1学期に、視覚障害者の疑似体験でアイマスク体験学習を行った。目隠しをし、白杖と補助者を頼りに段差のある場所や障害物のある場所などを歩き、障害者の方々の生活を理解する学習をした。また、盲導犬と触れ合う学習では、実際に盲導犬と共に生活している方を招き、実際の生活の様子などの話をしていただいた。そして、障害を乗り越え生活をする人の気持ち、生活の工夫や努力などを知り、障害のある人のための生活環境について調べた。具



体的には、学校や地域におけるバリアフリーについて調べ、その結果を発表した。このような活動を通して、児童は福祉の大切さを学ぶことができた。

2学期は、車いす体験や手足に重りをつける体験を通して、高齢者になると、体が思うように動かなくなることを実感した。そして、高齢者に優しい生活環境のあり方を調べて発表した。また、地域の高齢者養護施設を調べ、高齢者の方たちとの交流会の計画を立てた。地域の特別養護老人ホームを訪問し、劇や合唱・合奏を披露して、交流を深めた。交流会を経験した児童から、誰かの役に立つことの喜びや福祉の大切さなどの感想が出された。

子どもたちは、これらの学習を通して、障害のある方や高齢者の方への理解を深め、様々な立場に立って考え、共に生きていくために助け合うことの大切さを学ぶことができた。



## (2) 生命尊重教育

### <ねらい>

自他の生命がかけがえのない大切なものであることを深く自覚し、生命を大切にできる児童を育成する。また、悩みやストレスへの対処法、友人との好ましい関係づくりや助け合いのスキルを身に付ける。

### <実践>

#### ○「いのちの支え合い」を学ぶ授業

いじめや暴力行為、自傷行為といった自他の生命を軽視する行動や、自殺などの痛ましい事故の発生を防ぐため、さいたま市が推進している「いのちの支え合い」を学ぶ授業を5年生と6年生の学級活動の時間に実施した。

5年生では、自分が悩んだ時の相談の仕方、6年生では友達からの相談の相手になって話し合うロールプレイングを通



して、実践的な学習を展開した。児童会でも、自主的にいじめ撲滅運動を展開した。その結果、上手な相談の仕方やストレスの発散方法についてすぐに活用できるスキルを学ぶことができた。また、生命について話し合う活動や一人ひとりの人権について考える活動を通して、命の大切さや人権尊重の考え方を学ぶとともに、コミュニケーションの取り方や共感的に理解し合うことの大切さを学ぶことができた。

### （３）勤労・奉仕活動

#### ＜ねらい＞

勤労・奉仕活動を通して、勤労の尊さや社会奉仕の精神を涵養し、社会奉仕・社会福祉への参加意識を高め、進んで自分たちにできることを考え、行動しようとする態度を養う。

#### ＜実践＞

##### ○クリーン活動

落ち葉が舞う秋には、２年生以上の児童でボランティアを募り、落ち葉掃きをした。校内だけでなく、近隣の道路などでも活動し学校周辺のクリーン活動を行った。児童は、清掃活動を通して、協働で学校や地域を清掃し、勤労・奉仕の気持ちをもって活動することができた。



### （３）交流活動

#### ＜ねらい＞

保護者や地域の人々など、幅広く繰り返し交流活動を行うことを通して、連帯感や所属感を味わい、自分と社会や人々とのかかわりに関心をもち、地域社会の一員としての自分の在り方を考え、よりよく行動しようとする態度を養う。

#### ＜実践＞

##### ○あいさつ運動

児童代表委員会が毎月のはじめの１週間登校時刻に合わせて、朝のあいさつ運動を実施している。また、ふれあい委員会では、休み時間に廊下であいさつ運動を行ったり、学年を超えて触れ合う時間を設けたりして活動している。教職員、保護者、地域安全ボランティアの方々も朝や下校時にあいさつ運動に協力いただいている。



### ○どれみふぁさいどコンサート

毎年恒例の「どれみふぁさいど」は、地域の方たちと音楽を通しふれあう場となっている。本校の金管クラブや職員チーム、地域の中学校の吹奏楽部の演奏を披露した。多くの保護者や地域の方たちを迎え、地域みんなで音楽を楽しみ交流を深めることができた。



### ○三世代ふれあい広場

毎年、学校公開日に合わせて三世代ふれあい広場を開催している。地域の自治会や育成会の方々の協力のもと、児童・教職員・保護者・地域住民との交流を図る取り組みである。地域の方に教えていただきながら、昔遊びを楽しみ、遊びを通して世代を超えて地域や保護者と子ども達との交流を深めることができた。



### ○さいどっ子まつり

毎年、PTA主催による「さいどっ子まつり」を実施している。青少年育成道祖土地区会、学童クラブ、スポーツ少年団など、地域参加の行事である。工作やゲームなどの体験コーナー、手作り小物の販売などのコーナーを設け、バザーとレクリエーションを合わせた活動を展開している。学校を会場として広く地域コミュニティの場になっている。子ども達は、生き生きとして地域の方々と交流し、かかわりを広げることができた。



## (4) 生産的活動

### <ねらい>

生産的な活動や自然保護活動を通して、生産の喜びを体得し、社会生活の営みを理解するとともに、自らも環境を構成する一人として、自然を愛護しようとする態度を育てる。また、その過程で、思考力・判断力・表現力、協働性やコミュニケーション力等を育て、自主的・実践的な態度を養う。

## ＜実践＞

### ○稲作

本校では、5年生の総合的な活動の時間において、稲作体験の活動を取り入れている。地域農家の田んぼを借りて、田植えから稲刈りまで、農家の方に指導を受けて稲作を行った。子どもたちは初めての農作業に戸惑いながらも、泥だらけになりながら稲を植え、鎌を使って稲を刈った。

収穫したお米は、給食の食材にして全校で食したり、家庭科の調理実習の炊飯に使ったりした。自分で作ったお米の味は格別で、収穫の喜びを十分に味わうことができた。

### ○花いっぱい運動

栽培委員会では、学校の正門から昇降口までの花壇やプランターに花を栽培し、潤いのある環境づくりを進めている。また、各学年では、鉢や花壇、学校園でアサガオや野菜などを育てている。1年生の教室前南側の花壇では、ゴーヤを栽培して、緑の葉と黄色い花がきれいな日よけのカーテンになっている。子ども達は、水遣りや追肥などの世話をしながら、植物も自分達と同じように命あるものとして大切にする気持ちをもつことができた。

## 4 まとめと今後の課題

地域との交流を中心に具体的な活動や体験を重視した学習活動を展開することで、子どもたちの主体性や実践力が高まり、社会の一員として自分の生活や行動の仕方を考えることができた。また、人とのコミュニケーションを大切にしたり、身近な環境に関心をもったりする子どもの姿が多く見られるようになった。さらに、活動にあたっては、共に考えたり協力し合ったりして取り組む姿勢や最後まで粘り強く取り組む姿勢も見られた。今後は、本年度の実践をもとに、なお一層積極的な赤十字活動への参加を進め、福祉・奉仕の心を育てる教育の充実を図りたい。

